

児玉智比呂／進政範組が最後まで逃げ切り優勝!



6CPで大幅の減点となるも、他CPでは着実な走りを見せて優勝した児玉／進組。

全7戦で開催されるJMRC近畿アベレージラリーシリーズの第7戦は、10月28日に京都府南丹市をスタート／ゴールとする約100kmで争われた。本来なら最終戦となるのだが、今年の近畿地方は台風や大雨により第3戦が11月に、第6戦が12月に延期と、天候にたたられ、このラリーは事実上、第5戦めとなった。この第7戦も無事に開催できたかと言えばそうではなく、当初予定されていた道路が土砂崩れで通行止めになるなど、大雨の影響を受けていた。

スタート会場となったのは府民の森ひよし改め「スチールの森 京都」。全日本ラリーのギャラリーSSにも使用された、ラリーファンには思い入れのある場所。キャンプ場も併設され、たまたま泊まりに来てたファミリーがスタートしていくラリー車に声援を送るほのぼのした雰囲気の中、ラリーが始まった。

ラリーの設定は至って簡単。コマ地図に書かれたPC(速度変更点)から指示された速度で走

るだけ。これが5CPまで続く。このCPで首位から滑り落ちたのが、シリーズリーダーの畑中博／太田一彦組だった。なぜか出てくるはずのない時間走行を間違っしてしまい、その時に5CPが出てきて大慌て。51秒の減点を受け下位に後退した。ここでトップに立ったのは児玉智比呂／進政範組だ。

続く2番手以降は2点差で鍋島茂男／富田浩一組。そして1秒差で沼口和己／小川博史組が続いていた。

次の6CPにかけては競技長からの贈り物と称された、500m走行ごとに指示速度を変える区間がある。ここが勝負どころとみた畑中／太田組は、他のグループが二桁の大量減点を受ける

中、8点で上がり入賞圏内に再浮上してきた。7CPでは沼口／小川組が大量減点で脱落していく中、もう一度競技長からの贈り物区間となった8CPではトップに並んだ松井弘成／信田由美組が1km



1.児玉／進組はこのラリーで5年ぶりの優勝となった。2.わずか2点差が悔やまれる鍋島／富田組は2位に。3.好調に見えた畑中／太田組だったが5CPでのミスが響き3位。4.1～3位に入賞した皆さん。5.4～6位に入賞した皆さん。

ずつを500mずつと勘違いして一步後退。最後は児玉／進組が逃げ切って優勝を果たした。

このコンビは2013年に初めて出たこのラリーで優勝しており、相性の良いラリーとなっている。「こんな減点で恥ずかしい優勝です。リズムに乗れず大変でしたけれど勝てて良かった」と胸を撫で下ろしていた。2位は2点差で鍋島／富田組が入り「大量減点を受けながら2位にいた。結果オーライですね」と苦しい。3位に5CPが悔やまれる畑中／太田組が入り、シリーズリーダーをキープした。「5CPでの減点から気持ちを切り替えて頑張った甲斐がありました」と素直に喜んでた。

6.7.もう一つのクラス大学対抗には2組がエントリー。「採点間違いが3カ所もあったのに僕らが優勝とは驚き」と語る、大阪電通大の金田幸大／山崎勇斗組が優勝した。

